

## 2018年度日本経済学会・石川賞

中嶋 亮（なかじま りょう）氏

2018年度の「日本経済学会・石川賞」は、Review of Economic Studiesに掲載された Measuring Peer Effects on Youth Smoking Behavior などの一連の論文に結実した、市場取引を通じない経済主体間の交互作用の推定に関する研究を評価して、慶應義塾大学経済学部教授・中嶋亮に授与する。

同氏の代表作は RES 掲載の単著論文 Measuring Peer Effects on Youth Smoking Behavior と言ってよいだろう。本研究はアメリカのデータを使ってティーンエイジャーの喫煙に対するピア効果を計測したものである。中嶋氏は各ティーンエイジャーの喫煙からの効用が周囲のティーンエイジャーが喫煙するかどうかにも依存するような効用関数を仮定し効用関数の推定を行った。ピア効果の推定は、ある個人の喫煙行動が他人の喫煙行動から影響を受ける一方で、その個人の喫煙行動が他人に喫煙行動にも影響を与えるという対称性があるために推定が難しい。この点については、中嶋氏は他人の喫煙行動を所与のものとしたときにある個人が喫煙するかどうかを決定するという意思決定を各個人が逐次的に行った時に安定的な分布に収束するというマルコフ定常性を均衡の条件として課すことで推定を行った。計量経済理論を駆使した高度な研究手法を用いて説得力のある結果を得た点は高く評価されるべきである。

このピア効果論文に代表されるように中嶋氏は主体間の市場取引を通じない交互作用に関心を持ち、その作用を実証的に明らかにすることに一貫して心血を注いできた。IT産業の研究開発活動における協働関係についてネットワーク分析の手法を用いて分析し Research Policy に掲載された Dynamics of R&D Collaborations in IT industry (Nobuyuki Hanaki と Yosiaki Ogura との共著)、技術者の研究開発ネットワークが彼らの転職においてマッチの質や生産性に与える影響を分析し Labour Economics に掲載された The Effect of Collaboration Network on Inventors' Job Match, Productivity and Tenure (Ryuichi Tamura と Nobuyuki Hanaki との共著)、地理的な距離が研究開発における協働に与える影響を分析し Review of Economics and Statistics に掲載された Localized Knowledge Spillovers and Patent Citations: A Distance-based Approach (Yasudada Murata, Ryosuke Okamoto と Ryuichi Tamura との共著)などが一連の研究として挙げられる。最近では東京大学理学部物理学科の名簿を使って指導教員が大学院生の生産性に与える影響を推定した未公開論文 Evaluating Professor Value-added: Evidence from Professor and Student Matching in Physics (Yuta Kikuchi との共著)を著している。既存の計量経済学上の手法を応用するだけでなく必要に応じて新しい分析手法を開発する高い計量経済学的技能を有する点が中嶋氏の特徴である。ネットワークの計量経済学的な分析は近年盛んになされるよ

うになってきており、研究の数が飛躍的に増えつつある。中嶋氏の一連の研究は当該分野で基礎的な研究としてますます重要性が増すであろう。

また中嶋氏は、非正規労働者の正規雇用への移行を分析し *Labour Economics* に出版した *Are contingent jobs dead ends or stepping stones to regular jobs? Evidence from a structural estimation* (Julen Esteban-Pretel と Ryuichi Tanaka との共著)や日本の生産性の低下と失業の関係について分析し *Journal of the Japanese and International Economies* に出版された *TFP growth slowdown and the Japanese labor market in the 1990* (Julen Esteban-Pretel と Ryuichi Tanaka との共著)など日本経済を対象とした分析も積極的に取り組んでいる。

実証面や政策面を中心とし、日本経済・社会問題の解決に貢献する優れた経済学研究を顕彰するという賞の趣旨に合致した研究業績だと判断し石川賞の授与を決定した。